



RSウイルス予防接種説明書



RSウイルス感染症は、RSウイルスに感染することによって起きる呼吸器の感染症です。2歳までにほぼ全ての乳児がRSウイルスに感染すると言われており、感染すると、数日にわたり発熱や鼻水、せき、のどの痛みなど風邪症状が続き、気管支炎や肺炎を発症する場合があります。生後6か月以内の乳児が感染すると症状が重くなる可能性があります。

妊娠中にRSウイルスワクチンを接種することで、母体のRSウイルスに対する抗体の量が増えます。抗体は、胎盤を通じて赤ちゃんに移行され、生後6か月程度、RSウイルス感染症から赤ちゃんを保護することが期待されます。

1 RSウイルス予防接種の概要

接種対象者	妊娠28週から36週の妊婦
使用ワクチン	RSウイルスワクチン「アブリスボ」
接種回数	1回
接種方法	筋肉内注射
注意事項	<ul style="list-style-type: none">・妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師が判断する方については、接種に留意する必要があります。・接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立していないことから、妊娠39週までの間に妊娠終了を予定している場合、その14日前までに接種を完了することが望ましいとされています。

2 次の方は接種を受けないでください

- ① 明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ② 重篤な急性疾患にかかっている方
- ③ 本剤の成分に対し、重度の過敏症の既往歴のある方
- ④ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方

3 次の方は接種前に医師に相談してください

- ① 血小板が少ない方、出血しやすい方、抗凝固療法を受けている方
- ② このワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれのある方
- ③ 過去に免疫状態の異常を指摘された方、近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
- ④ 心臓血管系、腎臓、肝臓、血液疾患等の基礎疾患のある方
- ⑤ 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ⑥ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方
- ⑦ 腎機能障害、肝機能障害をお持ちの方
- ⑧ 授乳中の方

（ 裏面あり ）

4 副反応について

	RSウイルスワクチン「アブリスボ」
頻度 10%以上	注射部位の痛み, 頭痛, 筋肉痛
頻度 1~10%未満	注射部位の赤み, 腫れ
頻度不明	発疹, じんましん
右のような症状が疑われた場合は, すぐに医師に申し出てください。	重い副反応として, まれに, ショック, アナフィラキシー(接種後30分以内にあらわれる呼吸困難や全身性じんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと)があらわれることがあります。

※ 上記のほか, 発熱, 疲労, 悪心, 関節痛, 吐き気, 下痢などの症状があらわれる可能性があります。

5 予防接種後の過ごし方

- ① ワクチン接種直後に注射への心因性反応(怖さや痛み)などで気を失うことがあります。気を失って倒れてしまうことを避けるため, 接種後は一定時間座った状態で様子を見ましょう。
- ② 接種後 30 分程度は医療機関で待機するなど, かかりつけの医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。急な副反応はこの間に起こることがあります。
- ③ 接種した当日は, 普段どおりの生活でかまいません。ただし, 激しい運動は控えてください。
- ④ 接種した当日に入浴しても問題ありませんが, 接種部位を強くこするのは避けましょう。
- ⑤ 接種部位を清潔に保ち, 接種後1週間は体調の変化に注意してください。
- ⑥ 予防接種後に接種部位の異常や体調の変化, 高熱, けいれんなどの重篤な症状があらわれた場合は, 医師の診察を受けた後に保健所保健予防課(Tel 6 2 6 - 1 1 1 4)までご連絡ください。

6 予防接種健康被害救済制度

万が一, RSウイルス予防接種による重篤な健康被害が発生し, 被害者からの健康被害救済に関する給付申請について, 厚生労働省が因果関係を認定した場合, 国の定める医療費, 医療手当, 年金等の支給を受けることができます。

◎ 予防接種に関するお問い合わせは・・・

